

第5回 これからの学校づくり検討委員会 議事録概要

日時	令和4年6月2日(木) 18:30~20:30
場所	海陽小学校 1階多目的室
出席	別紙出席者名簿のとおり 市教委：教育長、教育部長、教育部次長、指導参事、椎名指導主事、棟方指導主事、山口学校教育課長、松尾学務係長、山本教職員係長、船橋教育総務課長補佐、土橋教育総務係長、林総務課主任、菊地主事、松浦主事
内容	<p>配布資料：委員会次第 これからの学校づくり第5回検討委員会 時間進行の目安、班分け資料 第5回検討委員会資料【事前配布】</p> <p>次第</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 第4回検討委員会の振り返り ○ 意見交換（ワークショップ） ○ 検討委員から大沼岳陽学校視察報告（参加委員） ○ 市教委から道外小中一貫校視察報告（坂日教育部長）→時間の都合により割愛 ○ 教育長挨拶 <p>○ 第4回検討委員会の振り返り</p> <p>＜市教委よりスクリーンへ資料を投影し説明＞</p> <p>○ 意見交換（ワークショップ） テーマ <u>これからの室蘭の学校教育の方法（在り方）に求めるもの【A→B→C班の順で発表】</u></p> <p>＜市教委よりスクリーンへ資料を投影し説明＞</p> <p>【各班発表】</p> <p>A班</p> <p>○自己有用感を育むために家庭は学校と連動し、子どもの頑張りを褒めることや家事を与え達成感を感じさせることが大切だと考えました。学校は小・中学校の先生たちが、節度がありお互いを認め合える学級づくりについて交流できるような学校になれば良いと思いました。それから、小・中学校それぞれ互いの良さを出し合い、毎日の授業をつくっていきると良いのではないかといい意見がありました。また、小学生・中学生が日常的に一緒に清掃活動をしたりすることで、低学年は高学年に対して憧れを持ち、高学年は手本となり、共に生きて感じる学校生活ができれば良いと感じました。</p> <p>地域の方は、ボランティアなど地域の行事に参加して、親以外の大人と交流して社会性を学んだり、学校内に町会の部屋を設置することや授業に地域の方が参加する、コミュニティー・スクールを活性化させるというお話が出ていました。</p> <p>室蘭市の愛情と誇りを育てるためには、まず一度室蘭を離れてみることで良さを実感することにつながるのではないかといい意見がありました。日常的に外で遊ばせ地域を知ることが大切です。学校では職業体験や地域巡り、ものづくりの体験、工場見学、市内の自主研修などを9年間で小・中学校力を合わせて行っていきると良いといい意見がありました。地域の方は、室蘭の良さを語るために地元企業の方が授業する場をつくると良いのではないかといい意見がありました。室蘭はカルチャーナイトが非常に盛況なので、親も子どもも室蘭に愛着があるのではないかと感じています。良いところも室蘭はあるという話が出ていました。</p>

不登校についてですが、家庭は、学校に行かない時間帯に企業への訪問をするということも良いのではないかと考えました。学校は、多様性を大事にして現在よりもさらに小・中学校の先生たちが交流をもち、手を取り合える学校になると良いという意見がありました。算数の問題の解き方、

理科の実験、英語など教科の専門性が高い先生が教えてくれた方が理解が高まると考えました。小学校については、担任の先生だけではなく多くの先生が子どもたちを見ることで、これまで気づけなかった子どもの悩みに気づくことができると考えました。また、異学年の授業に参加するという意見もありました。地域については、子どもは地域の人に授業をしてもらったり町会の方の家で勉強を習わせてもらい、保護者は町会で悩み相談をさせてもらうのも良い方法ではないかという意見がありました。

最後にいじめについてです。家庭ではSNSの使い方を見るのが大切です。また、学校は先生方の人数を増やし登校から下校まで目が行き届くようにすることや上級生が見守り異学年に相談することができる環境づくりが大切だと考えました。違う意見や考えを認めることは、いじめ防止の第一歩ですので、これらを小・中学校の先生で日々確認し交流できるような学校になると良いという話が出ていました。

B班

○結論から申し上げますと、これからの学校は子供たちにいろいろな選択を与えられる学校が良いという結論に達しました。例えば、不登校の子どもたちに必ず小学校や中学校に行かないと良い大人になれないということではなく、いろいろな選択を提示して与えてあげることも一つの選択です。ただし、そのような多くの選択や子どもたちの活動を与えていくためには、学校だけの力では受け皿になることができませんので、地域の人と寄り添い支え合える学校だけではなく、ネットを活用するようなことも新しい選択肢になっていくのではないかとのご意見をいただきました。これらのいろいろな選択肢、受け皿、たくさんの大人の目が一人一人の子どもそれぞれの良さを引き出していく手立てになっていくのではないかとこの結論になりました。

C班

○OA班、B班と重なる部分がたくさんありましたので、かいつまんでご説明したいと思います。まず結論ですが、学校を中心とした地域や家庭との連携が大切であるという結論になりました。

連携という点で言いますと、不登校では、昔は学校以外での地域の受け皿があったが今は少なくなっているという意見や、くじらんサポートセンターが子どもと親のサポートや学校と子どもをつなぐ、親と子どもをつなぐ連携が大切ではないかというお話がありました。その中でも室蘭市としても、もっとインクルーシブ教育の拡大をしていくべきではないかという話が出ました。教員の研修をもっと積むことで、なかなか集団の中に入ることができない子どもたちの特性である原因を取り除いてあげることができるのではないかとこの意見がありました。

それから医療に繋げていける組織をつくっていくことが大切ではないか、というお話をいただきました。それだけではなく、子どもたちにたくさんの目を向けてあげるという点では、小学校への人的配置として中学校の先生をもっと小学校へ導入することによって、救ってあげることができるというお話もいただきました。

いじめについては、地域で子どもを育てるという視点を持っていくべきではないかという考えが出ました。あとは、道徳の充実という点もありました。これらの問題を解決するためには、自己有用感と、愛情という部分が土台になっていくと思いますので、ここを解決することで問題が減っていくのではないかとこの意見がありました。自己有用感を高めるためには家庭や学校、地域の連携が必要です。そのためには、異年齢集団の取り組みをしていくべきではないかと考えました。これらの問題を解決していくために、結論としては学校を中心とした連携、コミュニティ・ースクールのより効果的活用を〇〇委員からもいただきました。それだけではなく、たくさんの目で見守るとい点では、教員を増やし心の余裕を持たせるといこと、また、〇〇委員からもありましたとおり、小学校の教科担任制をつくり、たくさんの目で見えていくという学校をつくる

ことで不登校やいじめを減らしていき、そして子どもたちの自己有用感、地元への愛着を少しでも育てていけるのではないかと、という意見がありました。

C班では、連携、地域で子どもを育てる、異年齢集団、その中心となるのが学校教育を中心としたコミュニティー・スクールを効果的に活用できる、たくさんの目で見守ることができる学校・地域・家庭になっていくと良いという結論になりました。細かい部分はA、B班と重なるのでキーワードでご説明致しました。

○ 検討委員から大沼岳陽学校視察報告（各班代表して一人ずつ発表）【C→B→A班の順で発表】

【各班発表】

C班

○5月23日に視察に行ってきました。まず驚いたのが、学校が新しいので通常は教育目標や学校の重点目標などができていて紹介していただけるのですが、大沼岳陽学校の場合は「ただいま、児童生徒と熱い議論中」ということで、今一生懸命児童生徒と一緒に話し合いを進めているところですのでまだできていませんということでした。一番はじめに驚いたと言いますか、大したものだなと思いました。

また、教育長さんや校長先生、2名の教頭先生、先生方皆さん仲が良く連携が取れていて良い印象でした。そして、各学級の授業風景を案内していただきました。案内してくださった先生は、高校まで室蘭にいて、その後大学へ進学し、現在にいたると言うことで大変親しみを感じる先生でした。教室は先生が2人体制で行っていて、小中学校の先生が乗り入れをしたり協力したり理解して取り組んでいて大変良い状況だと思いました。

学校体制としては4・3・2とあって、小学校1年から小学校4年までが一つの区切りとなっており、2つ目の段階は小学校5年・小学校6年・中学校1年となっていて、中1ギャップの解消につながっている状況になっています。そして、最高学年として中学校2年と中学校3年となっており、この連携が上手くいっているのが、小学1年生から見ると、中学2年生、中学3年生の大きいお兄ちゃん、お姉ちゃんという落ち着きを感じ、上級生は下級生がいるのである程度きちんとしたところを見せるという落ち着きがみられました。こういった影響を受け下級生も、穏やかでしっとりとした学級であったと思います。このような状況が、小中一貫の良い要素なのかなと思います。印象としてはまだたくさんありますが、次の発表もごさいますのでこの辺で終わります。

B班

○大沼岳陽学校義務教育学校小学校段階中学校段階の9年間を同じ学び舎で学んでいく学校を見に行きました。令和2年度に開校しお話しいただいた中身からは、まず子どもたちの人間関係が良好になってきているということと、学ぶ意欲が確実に向上しているというお話をいただきました。よく言われるのが、小中一貫校は同じ仲間です9年間過ごすので、人間関係が固定化することやそれぞれの総合評価が固定化してしまうということがデメリットと捉えられる点がありますが、その点については地域との連携を強化して、未然防止を図っているそうです。例えば英語は、小学校1年生段階から教科担任制をやっており、小学校3年生・4年生の算数や理科には中学校段階の教科担任が入っていています。令和2年度の開校ということで、コロナとの戦いの真っ最中の開校でしたので、学力の分析等には言及が無かったのですが、明らかに学力向上に繋がっていると感じております。

私は校長という立場で訪問しましたので、働き方の部分についてはどうなのかと思いお聞きしましたところ、まず、義務教育学校と言うことで圧倒的にマンパワーが増えます。3人が増える形になり、小学校と中学校で別々に動けることプラス3人が実働部隊として動けるのですごく大きなメリットだと思いました。それから、中学校段階の教員が小学校に教えに行くので、小学校の先生は空き時間が生まれ、教材研究ができるというメリットがあります。逆に中学校段階の教員にとってのメリットは、小学校段階の教員と一緒に部活動の指導ができるので、中学校だけで

部活動の負担を負うことが無いといったことが非常に魅力的だと思いました。

旧大沼中学校の校舎を使っているので、小学生段階の子たちが入ることで、例えば水道や階段の高さ、手すりの高さなどの改善が必要なところがあったようですが、それらについては、船橋さんが懇切丁寧に写真に収めているのでもし室蘭市で動きがあるときは丁寧に動けるのではないかと思います。

A班

○私が感じたことで今お二方のお話の内容と重ならない部分でお話しますと、私の個人的な目線でいけば、4、3、2で小中一貫になることで、どこか不具合や不都合が無いのかということについて見させていただきました。残念ながら時間が限られていたので、多くは見ることはできませんでした。私が主に見たのは、設備などのハード面では無く、子どもたちと子どもたち、子どもたちと先生、あとは先生同士の関わりがどのような形になるのかというところを見たかったのですが、先生と子どもたちの関わり合いでは、授業中は先生が2人体制で見ていることや、教科担任制をもっていることのメリットを見ることができたのですが、一番見たかった、縦の関係になった時の繋がりという部分が授業中だったので話している様子や上級生が下級生を面倒見ているという部分が残念ながら見ることはできませんでした。もし次に行く機会があれば、そういった場面も見ることができればと個人的には思っております。

人との繋がりという部分でいけば、地域に凄く愛され守られている学校と感じました。他の学校を見たことが無いので分かりませんが、私の感じた限りでは生徒や子供たちの人数が丁度良いと思っております。これで多すぎるとまた何か問題があるのかと思いますし、逆に少なすぎても小中一貫にするメリットが無くなるのかなと感じながら見させていただきました。他については、先にお二方からご説明ありましたので、私の個人的な意見ですが、参考にさせていただけたらと思います。

<検討委員会終了>